［職場］愛媛県
［職業］小学校教諭

現在 愛媛県

赴任国 ニカラグア共和国

［赴任地］ マナグア県マナグア市
［職種］ 小学校教諭
［派遣期間］ 2013年7月～2015年3月

教育の在り方に気づかせてくれた協力隊。帰国後、小学校でキャリア教育を開拓

鼻﨑 吉則さん　松山市立椿小学校 教諭
Yoshinori Hanazaki

中米・ニカラグアの小学校で算数教育に携わる事で見えたものは児童をとりまく教師、学校、社会が「交流し合う」ことの大切さだった。社会に開かれた教育を模索。学校外の様々な立場の人と子どもたちがリモートで対話するキャリア教育を実施するほか、職務外でキャリアコンサルタントや「2030SDGsカードゲーム」のファシリテーターの資格を取得。子どもたちのまなざしを世界と未来へ導く。

教室とベトナムをリモートでつなぎ 協力隊と児童が対話

タブレットを使ったユニークな社会科の授業が鼻﨑さんの提案で行われた。松山市立椿小学校6年生全員の約150人が、ベトナムに派遣中の青年海外協力隊の大森美和さんと対話するというものだ。児童は3人1組でタブレットの画面に向き合う。鼻﨑さんが冒頭「テーマは“看護師として活躍する大森さんはどんなことを大切にしているのだろう?”です。大森さんはコロナ禍の世界で、協力隊の看護師としてベトナムで活動しています」と紹介し、児童たちがそれぞれのタブレットを操作。大森さんと対話した。

授業の冒頭、各教室では協力隊について説明がされた。そのうえで、子どもたちは熱心にタブレットに見入り、ベトナムという国で活動する大森さんとリアルタイムで向き合った。対話から飛び出してくるキーワードを、鼻﨑さんを含む教員たちが黒板に書きこんでいく。

「国は異なっても“もっと良くなりたい”という気持ちは世界共通」。「あきらめないこと。挑戦すること」。「誰でも世界を変える力になれる」。

授業後、男子児童は「遠い国なのにすぐ近くで話している感じがしました。協力隊の活動をもっと知りたい」と声を弾ませた。

ニカラグアから日本の教育現場に戻り、社会に開かれた教育を実現しなければならないと痛感した。自分自身も、子どもたちも、教員も、学校、教室、教科書の中だけに意識が向きがちだが、外の社会とつながり、学び合う努力を重ねたいと校内で協議を重ね、この授業に漕ぎつけた。同市内の小学校において、画期的な取り組みだ。

リモートを使った社会科の授業を行う鼻﨑さん

タブレットに見入る児童たち

授業後、教室で子供たちからの感想を取りまとめる

“何とかしなければ”から“いかに支援するか”へ

学生時代から協力隊の活動には興味があった。実は教員になる前、派遣が決定していたが、現職教員特別参加制度※1を知り、実務経験を経て協力隊に参加。

ニカラグアの算数教育の質の向上のために、授業支援、教職員向け研修の実施、同時期に派遣されていた隊員と協力しての学力テストの作成などが主な活動だった。当初は問題点ばかりが目につき“自分がなんとかしなければ”と焦りを感じていた。共に過ごす時間が長くなるにつれ“現地の先生たちが意欲的に取り組むには、どんな支援ができるか”へと考え方が変わった。

知識や指導法を紹介するだけの研修から、学年ごとに決めた重点単元の指導案作りを一緒に行うようにした。教師同士が意見を交わす中で、指導のねらいや留意点が明らかになっていき、回数を重ねるたびに的確で建設的な意見も増えていった。

協力隊経験をきっかけに社会と出会う教育プログラム開発へ

現在は松山市内の小学校で6年生の学級担任。

日本の教育現場に戻り、教育の目的とは何か自分なりに問い続け、学校と社会の風通しを良くしたいという思いが鮮明になった。学外の様々な立場の人と子どもたちをリモートでつなぎ、対話するプログラムの実践を始めた。ベトナムの協力隊との交流もその1つだ。

協力隊への参加によって、相手のありのままを受け入れ互いに尊重しあえた時に、新しい何かが生まれることを学んだ。「子どもたちにもたくさんの人に出会い、触れ合い、新しい何かが生まれる喜びを感じて育ってほしい」と話す。

自分自身もキャリアコンサルタントや「2030 SDGsカードゲーム※2」のファシリテーター資格を得て、子どもたちにより多くの未来を提供できるように学びを続けている。昨年は、教員向けの「授業づくり研修会」で講師を務め、家庭科でのSDGsを取り入れた授業実践などを紹介した。

帰国して6年経つが、協力隊での経験は色褪せるどころか、今の自分にとって強力な原体験になっていると気づく。いつも今を精一杯生きることが、協力隊の経験を輝かせ続けているのだろう。

学校現場での多様な出会いの機会をさらに充実させるための鼻﨑さんの取り組みはこれからも続く。

鼻﨑 吉則さん プロフィール

愛媛県出身。鳴門教育大学大学院修了。松山市内の小学校で4年間教員を経験し、青年海外協力隊として中米・ニカラグアに派遣。算数教育に携わった。帰国後、再び松山市内の小学校に赴任。子どもたちと社会をつなげるキャリア教育の開拓などに取り組む。

※1　教員が身分を保持したまま、JICA海外協力隊に参加できる制度

※2　SDGsとは、2015年に国連本部が採択した2030年までに貧困を撲滅し、持続可能な世界の実現を目指すための17の国際目標のこと。カードゲームはSDGsを実現するために現在から2030年までの道のりを体験するゲーム

鼻﨑さんへのエール！

松山市立椿小学校
校長
武田 知行 さん

みんなで成長する教職員組織に

松山市では児童全員にタブレットを配布し、セットアップを済ませたところです。ベトナムのJICA海外協力隊員とリモートでつなぐ授業は、その先鞭となりました。鼻﨑先生は“学び続ける研修主任”として校内研修組織を作り、教職員の研修意欲を引き出してくれています。

互いを尊重し、協働するJICAでの活動経験を生かし、“みんなで成長する教職員組織”となるよう力を発揮してほしいと期待しています。